令和元年度 日向市立坪谷小学校 学校関係者評価書 No.1

学校経営ビジョン

よのなかに役に立つ人づくり(進んで学び 豊かな心をもち たくましく生きる児童の育成)

～目標をもち夢・希望の実現に努力する力を育てる。自然・人・文化とのふれあいを通して豊かな心育てる。～

重点目標	達成目標	4段階評価の平均				評価指標(アンケートの到達目標)	評価指標達成状況	達成度評価(自己評価)		評価委員評価	
		全児童自己評価	保護者等自己評価	職員自己評価	全体平均			十分達成=A ほぼ達成=B 要改善=C	評価	コメント	
個に応じた学指導意欲と実学、力の向上	意欲的に学習に取り組む児童を育成する	3.3	3.4	3.3	3.3	学習意欲に関するアンケートで90%達成	ほとんどの児童が学習に意欲的に参加できており、保護者、職員とも高評価である。家庭での学習にも意欲が見られると思われるので、おおむね達成である。	A	A	A	○児童は学習意欲旺盛で、複式の授業であっても実力は付いてきており、達成状況も良好である。 ○小規模校という利点をいかし、さらにマンツーマンに近い指導形態が実現できると良い。 ○個人ごとに学力の経年経過を把握していくことで、さらに学力向上をアピールできると思う。
	児童にとって分かりやすい授業の工夫・改善を行う	3.2	3.4	3.0	3.2	「分かる授業」に関するアンケートで80%達成	児童や保護者の授業に対する満足度は高いが、職員も研修などを積み授業改善に努めてきている。	B			
	基礎基本の定着を図る	3.3	3.6	3.0	3.3	各学力検査で県全国平均以上単元末テストで学年平均80以上	4年生については、県平均を下回っているが、5年生については、国語算数共に上回っている。6年生に関しては国語は県平均を大きく上回っているが、算数はわずかに下回っている。わずかに届いていない。単元末テストはほとんどの学年で80%に到達している。	A			
	家庭学習に十分取り組ませる	3.2	3.6	3.3	3.4	家庭学習に関するアンケート90%以上を達成	ほとんどの児童がまじめに家庭学習に取り組んでおり、保護者の評価も高い。宿題等の提出状況も良好である。	A			
	読書環境整備、読書指導の充実を図る	3.1	2.6	3.6	3.1	学期30冊の読書量を目指す	児童・職員の自己評価は高いが、保護者による評価は、低い。家庭での読書の姿が見られないことが考えられる。図書司書と連携したイベントなど読書に興味を持つ手立てを行っているがさらに工夫が必要である。平均読書量1学期～53冊	B			
体験活動を通して豊かな心の育成	体験活動や交流学習を通して生きる力を育成する	3.2	3.7	3.7	3.5	「体験活動」に関するアンケートで90%達成	地域の方の協力を得て、稲作を中心に多くの体験活動を行ったり、東郷学園との合同遠足や交流学習を積極的に行い、児童、保護者、職員の評価も高い。おおむね達成である。	A	B	B	○少人数であるが、活動に一生懸命取り組む姿や、学校外のあいさつなど良くできており、豊かな心の育成は身に付いている。 ○若山牧水顕彰活動に関して継続して、対外的に発表できる環境は、宝物である。好奇心旺盛な小学生の時にあらゆる機会を提供していくことが重要である。 ○今後の活動について、児童の負担感、それまでの準備等を考えると、活動に対して取捨選択していく必要もある。
	児童の自主性を育てる	3.0	3.5	2.9	3.1	「自主自立」に関するアンケートで80%達成	ボランティア活動や運動会の行事等で児童が主体的に活動する場がたくさん見られたこのことで児童、保護者の評価は高い、特に保護者からは高い評価を得ている。	B			
	目標設定をし、なりたい自分になるための努力ができる児童を育てる	3.1	3.0	2.9	3.0	「夢・希望実現」に関するアンケートで80%達成	児童の自己評価は高いが、保護者、職員はあまり高くはない。キャリア教育を計画的に推進していく必要があると考える。	B			
	牧水顕彰活動を中心にふるさと学習を通して、児童の生きる力を育てる	2.7	3.5	3.6	3.3	「郷土愛」に関するアンケートで80%達成	多くの顕彰活動を行い、児童の歌や朗詠等に対して高い評価を得て、児童の自信につながった。保護者や職員の評価は高いが、児童の自己評価は十分ではない。今後も児童のリーダーをしっかりと育成し、児童自身が誇りもてる取組として継続していく必要がある。	A			
	友達と仲良く協力する態度を養う	3.4	3.6	3.3	3.4	「協力」に関するアンケートで80%達成	縦割り班等の活動等も通して、全校児童で大変性が良く、活動の場でもよく協力できている。自己評価も高いので、十分に達成できている。	A			
	他校との交流を通してコミュニケーション能力を高める	2.9	3.5	2.9	3.1	「コミュニケーション力」に関するアンケートで80%達成	遠足などで、東郷学園と年間を通じて交流を行いそれぞれの学校に友達ができた児童もいる。ただ、コミュニケーション力の高まりの面で職員の評価が低い。	B			
	進んであいさつのできる児童を育てる(あいさあいさつ)	3.0	3.7	3.3	3.3	「あいさつ」に関するアンケートで90%達成	あいさつ挨拶を合い言葉に挨拶励行に努めてきた。学校内、地域でのあいさつもよくできており、児童、保護者、職員共にの評価は高く、ほぼ達成できたといえる。	A			
	身の回りの整理整頓ができる児童を育てる	2.9	2.6	2.1	2.5	「整理整頓」に関するアンケートで90%達成	児童、保護者、職員が揃って低い評価であった。清掃への取組は非常に真面目であるが、机の中等身の回りの整理整頓という点では改善が必要である。	C			
	指名をされたら「はいっ」と返事ができる児童を育てる	3.1	3.4	3.0	3.2	「返事」に関するアンケートで90%達成	児童、保護者、職員共に高い評価で、ほぼ達成といえるが、授業中の様子を見るとこれからも、継続的に指導していく必要はある。	B			

令和元年度 日向市立坪谷小学校 学校関係者評価書 No.2

学校経営ビジョン

よのなかに役に立つ人づくり(進んで学び 豊かな心をもち たくましく生きる児童の育成)

～目標をもち夢・希望の実現に努力する力を育てる。自然・人・文化とのふれあいを通して豊かな心を育てる。～

重点目標	達成目標	4段階で評価したものをパーセントに換算して表記				評価指標(アンケートの到達目標)	評価指標達成状況	達成度評価(自己評価)		評価委員評価 期待以上A 期待どおりB 期待を下回るC 要改善D	
		全児童自己評価	保護者等自己評価	職員自己評価	全体平均			十分達成=A ほぼ達成=B 要改善=C	評価	コメント	
食育を基盤とした体力の向上	「早寝・早起き・朝ご飯」を実践できる児童を育てる	3.2	3.5	3.1	3.3	「早寝・早起き・朝ご飯」に関するアンケートで100%達成	栄養教諭による食育授業の実施や、毎月の生活チェック週間の取組で自己評価も高いが、早寝、早起きの習慣が十分でない児童も見られる。	A	A	○望ましい生活習慣を身に付けるためには、日々の繰り返しが重要である。継続的に指導して欲しい。 ○家庭教育学級等を活用し、家庭の教育力を高めていく必要がある。	
	歯磨き指導を充実させ、虫歯予防に努める	3.2	3.4	3.4	3.3	「歯の健康」に関するアンケートで100%達成	虫歯保有率も低く、歯磨きの意識も高い。歯科衛生士による歯磨き指導も行き、正しい虫歯の磨き方を指導していただいた。自己評価も高く、治療率100%を達成できたので概ね達成である。	A			
	正しい姿勢「立腰指導」を徹底させる	3.1	2.8	3.4	3.1	「立腰」に関するアンケートで80%達成	全校一斉の立腰指導や授業の開始、終わりの立腰指導等を行ってきたが、児童、保護者、職員の評価が低く十分とはいえない。これからも、指導方法を工夫し、家庭と連携して改善していく必要がある。	B			
	児童の安全に関する意識を高める	3.0	3.8	3.0	3.3	「安全」に関するアンケートで80%達成	避難訓練をはじめとする安全教育を通して児童の意識は高まってきている。また、安心メールを活用し不審者メールを流すなどして保護者の安全の意識を高めることができた。	A			
地域等と連携した学校運営の推進	家庭や地域と連携した授業や活動を積極的に実施する		3.3	3.3	3.3	地域と連携した授業の実施(年間3回以上)	米作り体験、臼太鼓など多くの地域の方々に協力を得て学習することができ、児童の郷土愛を育むことができた。反省点として、よのなか先生等の活用が十分でないところがあり、今後積極的な活用を進めていく必要がある。	A	A	○子ども達が地域の伝統文化に積極的に参加したり、米作りなどの連携授業を行ったり等充実した学習がなされている。 ○学校の取組や発信は地域に浸透しているが、地域からの取組をさらに充実するなど、地域と保護者と学校がさらに連携していく必要がある。	
	学校での児童の様子を積極的に発信する		3.2	3.4	3.3	週1回以上の学級通信、週1回以上のブログの更新、月1回の学校だより	毎月の学校だより「ほととぎす」や各学級通信は定期的に発行することができた。また、学校ブログの積極的に更新を行い、学校の取組を地域の方々に発信することができた。	A			
実小現中一貫教育の推進	東郷地区の小中一貫教育の目標(グランドデザイン)を理解して共通の実践を行う		2.9	2.8	2.9	職員へのアンケート70%達成	東郷学園と合同研修を行い、グランドデザインを完成させたが、保護者への周知が十分でなかった。今後、グランドデザインを意識した取組をさらに進めていく必要がある。	C	B	○グランドデザインの周知を図るとともに、コミュニティスクール(学校運営委員会)の活動をさらに発信していく必要がある。 ○これからも東郷学園との交流を積極的に進めてほしい。	
	コミュニティスクールの充実に向けた取組を行う。		2.9	3.0	3.0	職員へのアンケート70%達成	本年度から始まった、コミュニティスクール(学校運営協議会)のはたらきを学校や地域に周知する必要がある。今後学校運営協議会で地域を取り込んだ組織作りを行い、各行事等で学校と地域の連携をさらに深めていきたい。	B			
教職員の資質の向上	自主的な研修等に積極的に取り組む			3.3	3.3	外部講師の活用3回以上、相互授業公開2回以上、校外研修2回以上	指導力向上に向けて、職員は日々の教材研究や授業公開など主体的に研修に取り組んできた。教師の指導力向上が、児童の学力向上にもつながってきている。	A	A	○これからも職員で、お互いにコンプライアンスチェックなどを行い、教職員としてコンプライアンスを遵守してほしい。 ○教職員の日々の努力は大変であるが、これからも、その地の学校、地域に親しみ教育活動を行ってほしい。	
	交通安全をはじめとして、服務規律の遵守に努める			3.5	3.5	職員へのアンケート70%達成	毎月のコンプライアンスチェックを行い、長期休業中を利用してコンプライアンス研修を実施した。職員の評価も高いので十分に達成できている。	A			

小中一貫教育に関する自己評価

項目	自己評価	自校の分析	学校関係者評価コメント
1 グランドデザインは、自校の教職員で共通理解できている。	B		
2 グランドデザインは、家庭や地域に理解されている。	C	○グランドデザインの職員や地域への周知が十分でなかった。研修会を開き、知、徳、体、地域における共通実践事項を検討し、実践してきたが、目指す児童像にはまだ達成しているとはいえない。これからもさらに、職員、地域への周知を行う共に、グランドデザインに沿った具体的な取組を行っていく必要がある。	○本年度、コミュニティスクールを立ち上げたので、来年度はさらに積極的な活動を行っていく必要がある。 ○東郷学園と連携し、交流をさらに深めてほしい。
3 目指す児童生徒の姿の実現のために、中学校区内の学校で共通理解実践事項がある。	B		
4 小中一貫教育の取組により、目指す児童生徒の姿に近づいている。	C		

評価委員意見総括

○少人数の良さを活かし、これからも、学力の向上を目指してもらいたい。又、地域の中の学校として、これからも伝統文化の継承、若山牧水顕彰活動の充実を図ってもらいたい。
○これから、児童数の減少に伴って、運動会の行事や顕彰活動等、児童の負担を考え、対策を考えていく必要がある。又、コミュニティスクールのはたらきを周知していき、学校と地域、保護者がさらに連携を深め児童のよりよい成長を図っていく必要がある。